

# 自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第2部課程第189期）

兵庫県小野市 甲山 秀樹

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです

## 1 はじめに

私が自治大学校の入校を決意した理由は2点ありました。

1つ目は、市職員としての見識をさらに高めたいとの強い思いがあったため、自治大学校で、高度な研修を受講したいと考えたからです。

自治大学校は、幹部候補の職員を対象とした、総合的な政策形成や行政管理能力を育成する中央研修機関であることから、私は以前から他の研修所とは一線を画す、特別な機関であると位置づけていました。

この自治大学校において、地方自治のあり方を原点から学び直すことで、大転換期を迎えた時代において、多様化する住民ニーズに対し、どのように対応すべきかを自分自身で導き出し、将来を見据えた政策を実践できる職員になりたいと考えたからです。

2つ目は、全国の自治体を代表する同世代の職員と共に学び、刺激し合うことで、今の自分の現在地である知識や能力を今一度、見つめ直すとともに、自分自身がまだ気付いていない固定観念を打破することで理想の職員に変革するための新たな一歩を踏み出したいと考えたからです。

自治大学校に入校する職員は、それぞれの所属自治体が直面する課題の解決を担う人材であり、私が所属する自治体の基本理念である「生き残るのではなく、勝ち残る」というポジティブ思考の観点から見れば、互いに切磋琢磨しながら刺激し合うことで、

さらに成長することができる良きライバルであると捉えていました。

私は、この職員たちと共に学び合うことは、何ものにも代え難い貴重な経験になると確信し、使命感を持って入校を決意しました。

## 2 研修の概要

私は、自治大学校において、10月中旬から約2週間のカリキュラムで、行政に関する法制度を学ぶ「基本法制研修B」と、翌年1月上旬から約2か月間にわたり、政策立案の実践的な手法を学ぶ「第2部課程」を受講しました。

基本法制研修Bでは、自治体職員として習得しておくべき基本的な法制度として、行政法や民法、地方自治制度、地方公務員制度、地方税財政制度を講義形式で短期間に集中的に学びました。

また、第2部課程では、自治体の幹部候補生として、行政課題の解決に向けた政策立案や、プレゼンテーションする上で必要な能力の養成に主眼を置いたプログラムとなっており、グループワークなどを通じ、自ら調べ、考え、判断し、首長や市民に対し説得力を持って伝えることの重要性を学びました。

いずれの課程においても、講義の進度は早く、難易度も高く設定されており、さらにグループワークなどの演習課目においては、講師の方々からの指摘事項に対する分析や、レポートの提出期限など、一定の負荷がかかった状況で学習を進めていく必要があったため、受講当初は戸惑うこともありましたが、

しかしながら、各分野の第一線で活躍されている講師の方々の言動や考え方を盗み取るつもりで講義に臨み、配布資料の読み込みや、演習での積極的な意見や見解を述べることで、次第に多くのことを学び取ることができるようになり、それが結果的に私にとって大きな自信につながるようになりました。

### 3 振り返ると

この自治大学校で、約 60 日間にわたり、全国の自治体を代表する同世代の職員と、同じ寄宿舎で共同生活を送れたことは、大変刺激的であり、とても充実した日々でした。

振り返れば、とても目まぐるしく、時には大変な時期もありましたが、精一杯走り切ったと言える貴重な経験でした。

研修全体を通して感じたことは、参加している職員が、それぞれに目標を持って意欲的に研修に臨んでいることでした。

研修プログラムの中の校長講話において、「何かを得ているときは、何かを失っている、自分が今何をすべきかは自分自身で答えを出してほしい。」とご教授いただきました。

私の周りの職員は、正にそれを体現しており、講義中はもちろんのこと、時間外や休日においても、貴重な研修時間として捉え、それぞれの目標に向かって何事にも積極的に取り組んでいました。早朝や昼休み、夜間や休日も含めた 24 時間すべてを研修期間と考えており、その意欲的な姿勢は、私自身も感化され奮起にもつながりました。

### 4 最後に

自治大学校での研修を終えた今、私は研修期間のすべてに意を注ぎ、完全燃焼することができたことで、とても晴々とした気持ちでいっぱいです。

大切なことは、何事にも意欲的に取り組む気持ちを常に持ち続けることであり、積極的な姿勢と向上心があれば、入庁何年目であっても成長できることを改めて感じることができました。

そしてこの自治大学校には、それを十二分に叶えるだけの講師陣や講義内容、設備や時間、仲間たちの存在がありました。

私は現在、入庁 22 年目で、職員人生の概ね折返しの時期にあたります。

この自治大学校で得た素晴らしい経験と、巡り合えた仲間たちとの絆を誇りとして、郷土に戻り、新たな 20 年間の職員人生を歩み出しています。

末筆ではありますが、繁多な職場状況にも関わらず、私の入校の決意に対し、更に背中を押していただいた所属の上司、丁寧にご教授いただいた自治大学校の教官や教務部の皆様、かけがえのない時間を共有した同僚の皆様に、改めて心から感謝申し上げます。



(グラウンドから見た寄宿舎)